

TURis システム及び前立腺肥大症に対する TUEB 手術導入

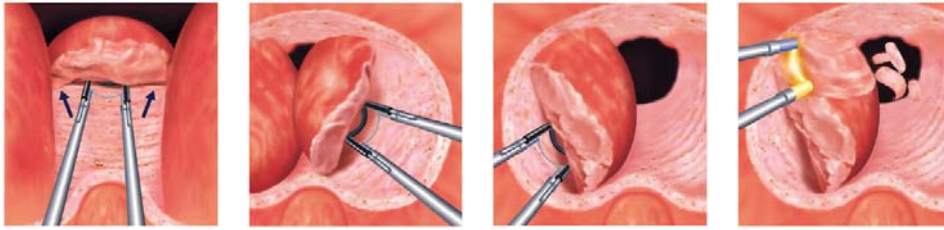
泌尿器科領域におきましては、尿道内に内視鏡を挿入し組織の切除等を行う経尿道的手術が大きな柱となっております。前立腺肥大症に対しても経尿道的前立腺切除術 (transurethral resection of prostate : **TUR-P**) が 50 年以上にわたり標準手術として行われ、今なお中心的役割を担っております。しかし、このTUR-Pでは通常の電氣的切除・凝固が行われるため、術中使用する灌流液に非電解質溶液を使用する必要があり、その非電解質溶液が体内に吸収される事により起こる低ナトリウム血症 (**TUR症候群**) という合併症の可能性がります。つまり血液が薄くなることで水中毒と呼ばれる状態に陥る事です。

大きな前立腺肥大症の手術ではこの合併症の頻度が高くなり、出血量も増加する事がよく知られています。現在このような合併症の頻度を減少させるためホルミウムレーザーや体内に電流の流れない**バイポーラー電極**を使用した機器の開発・普及が徐々に進んでおります。

当院でも 2008 年の春よりオリンパス社製 **TURis** システムを導入し、手術の安全性を高める努力をいたしております。このシステムはバイポーラー電極を使用でき、体内に電流が流れないため灌流液として生理食塩水 (電解質溶液) を使用することが可能で、先に述べました **TUR** 症候群が起こる可能性がほとんどありません。また強い止血・蒸散効果により出血量を減少させる効果もあります。



しかし従来の **TUR-P** に準じた方法では、前立腺が大きい程やはり出血量は増加してしまいます。この欠点を補うため近年前立腺肥大症に対する経尿道的な核出術が普及してきております。この手技は古典的に行われてきた開腹による被膜下摘除術 (外科的被膜を残して肥大組織を摘出する方法)、簡単に言いますとみかんの皮だけ残して実だけをくり抜く方法を経尿道的に行ったものです。ホルミウムレーザーを用いた方法が先行してはりましたが、最近機器の開発により **TURis** システムを使用した核出術が可能となりました (**transurethral enucleation with bipolar : TUEB**)。この方法では大きい前立腺肥大症に対しても従来法に比べ出血量を減少させる効果が期待でき、より確実な肥大組織の摘除が可能です。またレーザー手術に比べ、泌尿器医が長く慣れ親しんでいる経尿道的手術器具に近いため、より安全性が高いと考えられます。



当科におきましてはホルミウムレーザーによる核出術経験者を中心に手術手技の安全性向上に日々取り組んでおり、今後も積極的にこのTUEB手術を勧め、新しい機器導入に努めていきたいと考えております。しかしまだまだ巨大な前立腺肥大症では安全性・手術時間などの問題もあり、当科では患者様の安全を第一に考え、患者様の状態等により臨機応変に開腹による核出手術も適宜行っております。

前立腺肥大症による排尿障害でお困りの患者様はお気軽に当院泌尿器科外来にて御相談下さい。